

災害時の火災対策



火災は地震の被害をより大きくします。もし出火の現場に居合わせたら、隣近所の人たちと協力して、燃え広がる前に消火しましょう。ただし、そのために逃げ遅れては大変です。初期消火の三原則を念頭に、慌てず冷静な判断を心がけましょう。

初期消火の三原則

① 早く知らせる

火災を発見したら、大声を出して近所に助けを求め、直ちに119番通報する。



② 3分以内に消火する

消火器や水を使って消火、なければ濡らしたシーツや毛布をかけるなど、手近なものを使用する。



③ 早く逃げる

天井に火が回ったら消火をあきらめる。できる限り燃えている部屋のドアや窓を閉め、空気を遮断して避難する。



消火器の使い方と注意点

現在では、大きな揺れを感知したら自動的にガスの供給を停止するガスマイコンメーターの設置が進んでいますので、やけどなどの危険を冒してまで火を消すことはやめましょう。大きな揺れがおさまってから直ちに火を消し、ガスの元栓を閉めるようにします。一般的に初期消火が可能なのは、天井に火が回るまでと言われていしますので、天井まで火が回ってしまったら、煙を吸わないように注意しながらすみやかに避難しましょう。

1 安全ピンに指をかけて上に引き抜きます。



2 ホースを外して火元に向けます(できるだけ先端をもつ)。



3 レバーを強く握ると消火剤が噴射されます。煙や炎ではなく、火元に吹き付けます。



消火のあとも熱が残っていると再発火する恐れがあるので注意しましょう。



消火器の設置は日の当たる場所や湿気の多い場所を避けましょう。

だれでも
消火活動が
可能な

スタンドパイプ消火資機材について

大規模災害時、住宅密集地の大和市では、同時多発的に火災が発生した場合の延焼防止が大きな課題です。

スタンドパイプは、道路上にある消火栓や排水栓に差し込み、ホースをつないで、誰でも消火活動ができる消火資機材です。消火器とあわせ、スタンドパイプ消火資機材の操作方法も習得しておきましょう。

大和市では、駅やコンビニ、学校、各自主防災会などに設置しています。



① 初期消火

まずは身近な消火器、水バケツ等を使って消火を試みるとともに、スタンドパイプを用意する。スタンドパイプを使用する場合は燃えている室内には入らず、外からの放水で消火しましょう。

② 延焼防止

火が周りの家に燃え移らないように、燃えていない家に水をかけるようにしましょう。



スタンドパイプの使い方動画→



※燃えている建物に入り消火することは非常に危険なので、屋外から放水するようにしましょう